



No.98

市政の窓

「宍粟市へエール」

「平成」から「令和」へと新たな時代が幕を開けました。

この間の大型連休で、心身ともにリフレッシュしたのも束の間、休み明けにはすぐさま総会シーズンに入。時には1日数回も出席させていただくこともありました。先月は、あいさつなどで数多く令和の話題に触れましたが、未だ平成が体に染みついていいるのか、令和と発する直前は、頭の中で再確認してから声にするようにしており、スムーズに話せるようになるには今少し時間がかかりそうです。

平成の時代は、携帯電話やインターネット

の普及が日常生活にも大きな変化をもたらした、また、ノーベル賞では17人の日本人（日本国籍）が受賞し、サッカー女子ワールドカップでは、なでしこジャパンが優勝するなど明るい話題も数多くありました。その一方で、阪神淡路大震災や熊本地震など大規模な自然災害が多発し、東日本大地震では本市も大きな被害を受けました。

令和の時代は、国民が明日への希望を咲かせ、災害のない平和で幸福に満ちた時代となるよう願っております。

先月14日、本市が難読地名の東西横綱がご縁で交流し、「災害時等相互応援に関する協定」を締結している兵庫県宍粟市の福元晶三市長が、本市にお立ち寄りくださいました。同市は、昨年7月の西

日本豪雨で市民が犠牲となるほどの甚大な被害を受けられ、その際、宍粟市から市民の皆様や市議会、市役所などからの支援金をお送りしたことへのお礼を兼ねての訪問でありました。ごあいさつでは、匠瑛市民への感謝の言葉を述べられる中で感極まる場面もあり、そのお人柄とともに、熱意と誠意のこもった心情を察し、このたびのご訪問を通じて、両市の連帯感がさらに強くなったと感じております。

現在も福元市長を先頭に、災害復旧に取り組みされていることとあり、宍粟市の皆様には改めて心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

匠瑛市長 太田安規

飯高を歩く

日圓の墓

匠瑛探訪

157

江戸時代、飯高村の日蓮宗・飯高檀林には近在近郷からも多く学徒が集まりました。

その一人、日圓聖人は飯高生まれで、妙福寺や飯高檀林が開かれた頃に学び、1603（慶長8）年には飯高第4世の化主（学長）に就任しました。

前後して、日圓は飯高の後継争いを避け、中村（多古町）の日本寺（中村檀林）に移りました。中村では日圓を慕う学徒が多く集まり、「学室開祖」として尊崇されました。

しかし、1605（慶長10）年6月4日（新暦では7月19日）、39歳の生涯を飯高の地で終えまし

た。埋葬されたのは現在の県立飯高特別支援学校の程近くで、そこは「日圓上人塚」と呼ばれ、史跡として市文化財に指定されています。

日圓の死を巡っては、飯高から中村へ帰る道中に安久山で飯高檀林の学徒によって殺害された、との伝説もあります。

この上人塚は、中村檀林と中村西谷集落の信徒によりまつられ、守られてきました。

平成16年7月には四百遠忌を記念して『惠雲院日圓聖人と中村檀林』都守基一編著）が出版されました。その際、関連資料が紹介されその生涯が明らかになりました。

【訂正とおわび】
本紙5月号掲載の記事で、「平成天皇」とあるのは「上皇陛下」の誤りでした。訂正、おわびします。

（市文化財審議会委員・

依川雅一）

問秘書課広報聴班

☎73・0080



飯高の日圓上人塚

文芸コーナー

短歌

小泉泰清 推薦

廃業し田の辺に立てば葦分けて

かえるの声の高く響けり

そら豆を食べれば口に初夏の香が

ひろがりてくるビールがほしい

小部屋にてあふれるほどの新緑を

見つめるうちに風入り来る

こわごわと足元すける「かずら橋」

「よみほつと」に甦る四国の旅を

一葉が千から万へ移り行く

令和の時代千葉の時代へ

筍と蕨をいただき珍しく

山菜採りにいきたし山へ

満開の桜の並木和らぎて

一陣の風花吹雪舞う

木下 昌子

椎名 昭雄

依知川雅一

鈴木とも子

小川 一夫

高橋百合子

古谷由美子

川口城司 推薦

渡辺 重雄

石田 秀子

小川みさ子

小川 まさ

俳句

高安せい子 推薦

元号の果てのやすらぎ花筏

即位の日雨の青さも清和かな

山桜世の喧騒を遙かにす

葉桜や小学校は統合に

八十八夜箆筒に残る紺紺

ネクターの夏場所となる稀勢の里

元年だ雄大なれと海は言ひ

大川 宣子

椎名 晴江

椿 和枝

安藤 建子

岩井 やす

椎名 貴寿

高木 芳夫

川口城司 推薦

窓近く小さき囀り夜明けたり

草刈りや大縞蛇の女帝然

閑静な竹林今朝は児らの声

川柳

勝又康之 推薦

秒針が動き令和の幕が開く

一日の暮らし時計に仕切られる

カタログで期待はずれの腕時計

腕時計古希の祝いに孫がくれ

家族史を教えてほしい古時計

ボンボン仏間の時計淋しいな

遠き日の生き様映す走馬灯

江波戸京子

常世田やす子

佐久間美智子

林 サダ子

鶴澤 澄子

岡田けい子

松野 敏昭

川口城司 推薦

新元号ちと考えてああ「レイワ」

石田 津

力作募集中

あて先…匝瑳市秘書課広報広聴班
〒289-0080 FAX 72-11114

〒289-12198 匝瑳市八日市場ハ793番地2

図書館だより

図書館ホームページはコチラ
<https://www.library.sosa.chiba.jp>



●休館日…毎週月曜日・6日(木)

●八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

雨の日は

梅雨の時期、雨の日にゆっくり読書をしてみたいかでしょうか。でもジメジメしたこの季節、「雑菌による本の衛生面が気になる…」という人は、カウンターに設置してある除菌ボックスをご利用ください。

読書グループをつくりませんか

読書の感動を「仲間」と語り合いませんか。県立図書館の『十冊文庫』を利用すれば、10人で同一タイトルの本を読むことができます。個人への貸し出しはありませんので、グル

ープの代表者は八日市場図書館にお申し込みください。所蔵作品は、芥川賞や直木賞の受賞作品や、話題作などで、県立図書館のホームページから読みたい本を探せます。詳しくは、八日市場図書館までお問い合わせください。

6月の「おはなし会」

- ★八日市場図書館
毎週土曜日の14時から約30分間
- ★のさか図書館
第4土曜日の10時30分から約30分間

おすすめの本

『たゆたえども沈まず』

原田マハ／著 幻冬舎

19世紀末、パリ。浮世絵を売りさばく日本人、林忠正とその片腕の加納重吉。売れない画家のゴッホと画商である弟のテオ。4人の“生”が入り交じり、感動的な群像劇を生み出しています。表紙のゴッホの代表作『星月夜』とともにご堪能ください。

『日本文学全集04 源氏物語 上』

紫式部／著・角田光代／訳
河出書房新社

紫式部による日本文学最高の傑作を、角田光代氏が読みやすく現代語訳しています。千年読み継がれてきた世界最古の長編小説に挑戦しませんか。上巻は一帖「桐壺」から二十一帖「少女」までを収録。